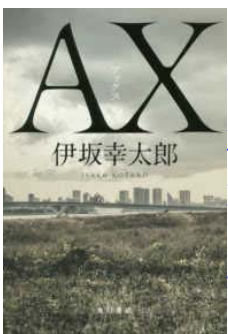


# 読書のすすめ

その32 H 1 / 24

## 本屋大賞ノミネート作品発表

本屋大賞は、全国の書店員が一番売りたい本を選ぶ賞です。今年も、一次投票が昨年11月1日より本年1月4日まで行われ、全国の504書店、665人の投票がありました。その集計の上位10作品が「2018年本屋大賞」ノミネート作品として決定しました。本屋大賞に選ばれるのは、はたしてどの作品ででしょうか。発表は今年4月10日です。発表までに全作品を読んでみませんか？



『AX』（伊坂幸太郎）

最強の殺し屋は—恐妻家。こんな物騒な仕事をしていることは、家族はもちろん、知らない。



『かがみの孤城』（辻村深月）

学校での居場所をなくし、閉じこもっていた「こころ」の目の前で、ある日突然部屋の鏡が光り始めた。生きづらさを感じているすべての人に贈る物語。



『崩れる脳を抱きしめて』（知念実希人）

広島から神奈川の病院に実習に来た研修医の碓氷は、脳腫瘍を患う女性・ユカリと出会う。



『屍人荘の殺人』（今村昌弘）

神紅大学ミステリ愛好会の葉村譲と会長の明智恭介は、曰くつきの映画研究部の夏合宿に加わるため、同じ大学の探偵少女、剣崎比留子と共にペンション紫湛荘を訪ねた。



『騙し絵の牙』（塩田武士）

『罪の声』で2017年本屋大賞第3位の塩田武士が、俳優大泉洋を主人公に「あてがき」した挑戦作！



『たゆたえども沈まず』（原田マハ）

天才画家フィンセント・ファン・ゴッホと、商才溢れる日本人画商・林忠正。二人の出会いが、「世界を変える一枚」を生んだ。



『盤上の向日葵』（柚月裕子）

実業界の寵児で天才棋士。埼玉県天木山中で発見された白骨死体。彼は本当に殺人犯なのか？



『百貨の魔法』（村山早紀）

「閉店が近いのでは？」と噂が飛び交う星野百貨店。百貨店で働く人々と館内に住むと噂される「白い猫」が織りなす、魔法のような物語。



『星の子』（今村夏子）

主人公・林ちひろは中学3年生。出生直後から病弱だったちひろを救いたい一心で、両親は「あやしい宗教」にのめり込んでいき、その信仰は少しずつ家族を崩壊させていく。



『キラキラ共和国』（小川糸）

『ツバキ文具店』待望の続編。夫からの詫び状、憧れの文豪からの葉書、大切な人への最後の手紙…。伝えたい思い、聞きたかった言葉、承ります。